

表紙について

『アジア太平洋と関西 関西経済白書2017』を書店の本棚から取り出している場面をイメージしました。店内の吊り案内や本棚の文字は、本書の内容を示しています。皆様のご購読をお願いします。

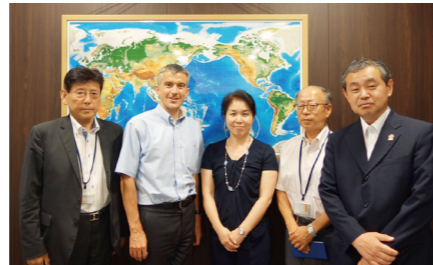


▶ 活動状況 は本文に関連記事を掲載。

2017年7月—9月

- 7月 1日 稲田義久センター長が京都大学東アジア経済研究センターシンポジウム2017「トランプ政権下の東アジア政治経済関係」で「トランプ政権の日本経済への影響」と題して講演
- 7月 6日 『Kansai and the Asia Pacific Economic Outlook 2016-17』英文白書発表会
- 7月25日 駐大阪・神戸米国総領事館 政治・経済担当領事Colin Fishwick氏との懇談
- 7月28日 「人口減少が経済に与える影響の分析」第2回研究会
- 7月28日 関西労働研究会
- 8月 3日 「アジアにおける開発金融と金融協力」第2回オープン研究会(ワークショップ)
- 8月24日 第2回マクロ経済分析プロジェクト研究会
- 8月30日 「第113回景気分析と予測」、「Kansai Economic Insight Quarterly No.35」記者発表
- 9月 5日 稲田義久センター長が関西経済連合会 経済財政委員会で「関西経済GRP100兆円を目指して～関西経済の中期展望アップデート～」と題して講演
- 9月 8日 講演会「温暖化対策に関する国際情勢と日本の課題」(関西経済連合会との共催)
- 9月 8日 研究会「温暖化対策に関する国際情勢と日本の課題」(関西経済連合会との共催)
- 9月15~16日 2017年度マクロモデル研究会(東京)
- 9月16~17日 第20回労働経済学カンファレンス(東京)/猪木武徳研究統括が「労働経済学の今後:この50年を振り返りながら」と題して基調講演

- 9月19日 企業の海外展開支援セミナー「SDGsに関する世界潮流とビジネス上の課題・対応」(「親関西」人材ネットワーク連絡会の一員として国際労働機関(ILO)駐日事務所と共催)
- 9月22日 研究者交流会/猪木武徳研究統括が「『歴史に学ぶ』のか、『歴史は繰り返す』のか」と題して基調講演
- 9月27日 「都市におけるIoTの活用」第1回研究会
- 9月28日 木下祐輔研究員が大阪大学医療経済・経営学寄附講座 医療問題研究会(第14回大阪)で「仕事内容や職場環境とメンタルヘルス・健康問題」と題して講演



◀ 7月25日 駐大阪・神戸米国総領事館 政治・経済担当領事Colin Fishwick氏との懇談

インサイト 詳細はホームページへ。

【APIR Trend Watch】

8月4日 No.42 「訪日外国人消費の経済効果 爆買いから新たな拡張局面へ:比較2013-16年」稲田義久、下田 充(日本アプライドリサーチ研究所主任研究員)

▶ 編集後記

大阪大学の「自由」の源(みなもと)

自由。本多佑三研究統括の巻頭インタビューで大阪大学経済学部についてたずねたとき、繰り返し出てきた言葉です。出自・学閥に関係なく世界を視野に入れた自由な人事、研究者間の自由で闊達な雰囲気。機関誌No.11の猪木武徳研究統括(大阪大学名誉教授)の巻頭インタビューでも、阪大の印象をたずねたときの開口一番の言葉は「阪大は、とにかく自由でしたね」というものでした。

では、その感慨はどこから来るのでしょうか。阪大の前身は江戸時代に大坂町人が興した学問所「懐徳堂」と、蘭学者・緒方洪庵の私塾「適塾」で

あるとされ、その発祥は幕府や藩の監督下でない独立した教育機関でした。適塾には福澤諭吉ら多くの俊英が日本中から集まり、彼らは明治維新前後の転換期に足跡を残しました。そして彼らを受け入れた大坂という町は、江戸から現代まで日本の商都として栄え、日本中から人や物産や情報が集まる地であったと同時に、商いの町としての実利主義が息づいていた町でした。古代にさかのぼれば、諸国の貢物が集まり、遣隋使・遣唐使が出航し、海外の賓客を迎えていた「難波津」という国際港を持つ、外からの風が吹きわたっていた町でした。阪大の「自由」は、大阪が持つ日本唯一のこの来歴に由来するのかもしれませんが。(真鍋)

APIR Now No.13/2017年10月 [季刊]

一般財団法人 アジア太平洋研究所
ASIA PACIFIC INSTITUTE OF RESEARCH

評議員会会長: 井上礼之
(ダイキン工業株式会社取締役会長 兼 グローバルグループ代表執行役員)
理事・所長: 宮原秀夫(元 大阪大学総長)
代表理事: 岩野 宏
研究統括: 猪木武徳(大阪大学名誉教授)、本多佑三(関西大学教授)
数量経済分析センター センター長: 稲田義久(甲南大学副学長)

〒530-0011 大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪 ナレッジキャピタル タワーC 7階
TEL 06-6485-7692 (アウトリーチ推進部) FAX 06-6485-7689
E-mail contact@apir.or.jp ウェブサイト http://www.apir.or.jp



【発行】一般財団法人 アジア太平洋研究所
発行人: 岩野 宏
編集担当: 岡田直樹・真鍋 綾 (アウトリーチ推進部)

本誌に関するご意見・ご感想をcontact@apir.or.jpまでお寄せ下さい。
本誌掲載の役職名は会合開催当時のものです。
本誌掲載記事・写真の無断転載を禁じます。

☆メルマガ「APIR」配信登録は左記ウェブサイトよりどうぞ!

APIR Now

No.13

OCTOBER
2017



アジア太平洋と関西 特集号

関西経済白書2017

巻頭インタビュー

本多 佑三

一般財団法人アジア太平洋研究所
研究統括

RESEARCH PROJECT

『アジア太平洋と関西 — 関西経済白書2017—』刊行

ECONOMIC FORECAST

■ 第113回景気分析と予測/
Kansai Economic Insight Quarterly No.35

■ APIRインターンの「私が日本を選んだ理由」

TOPICS

INFORMATION

APIR

経済学とは 人類の知恵の宝庫、 改善と用途を考えることが経済学者の仕事

APIRの研究統括に、金融論が専門の本多佑三・関西大学教授が就任しました。

本多研究統括とAPIRの関係は、APIRの前身である関西経済研究センター時代から始まります。

本多研究統括に、研究者を志した理由、米国プリンストン大学での恩師との出会い、大阪大学の思い出、研究統括としての抱負などを聞きました。

自分を生かすため研究者を志す

私が経済学の研究者を志したのは、自分を生かせる職業だと思ったからです。高校生の頃の私の好きな科目は、数学と英語でしたが、経済学では数学を使います。また経済は「経世済民」(世をおさめ民をすくう)という言葉から来ていますが、その意味で経済学は人々の生活の改善に役に立つ学問です。好きな数学を使えて、さらに人々の役に立つ。そこから経済学の研究者を志そうと思い始めました。

大学は早稲田大学に入学しました。早稲田では経済学の勉強が3分の1、英語の習得が3分の1、軟式野球の同好会活動が3分の1という生活で、留学生のいる国際部に入ったり、軟式野球の同好会で体力の限界に挑戦したりしていました。そんな学生生活の中で研究者への道を模索していました。

米国プリンストン大学で 生涯の恩師と出会う

しかし当時、研究者へのハードルは高く、まず食べていくのが大変だと言われていました。自信はあまりなかったのですが、留学先の米国プリンストン大学ですばらしい出会いが待っていました。指導教官、ステファン・ゴールドフェルド先生との出会いです。

先生から「研究者になりなさい。学位

論文を書くように」と強く勧められました。学位論文を書くときは一対一で指導教官と向き合います。書いては直し、書いては直しを繰り返すのですが、先生は辛抱強く指導され、私の能力を見つけてくださいました。研究者になった後もおつきあいがあったのですが、先生は若くして亡くなりました。それがとても残念です。

自由が特色の 大阪大学経済学部

帰国後は神戸商科大学(現兵庫県立大学)などを経て、大阪大学経済学部へ招かれました。阪大経済学部の教授陣は、とにかくユニークでした。阪大に同学部が設置されたのは第二次大戦後です。当時の経済学の主流はマルクス経済学でしたが、その流れには同調せず、当初から近代経済学を重視していました。それが同学部の躍進の基礎になったと思います。人事も自由で、学閥や出身地に関係なく世界中から研究者を集め、米国的な能力主義に貫かれており、私が学部長のときもその方針を継承しました。

一時、阪大の社会経済研究所は数理経済学の分野で世界のトップでしたが、それも学閥に関係なく研究者を集



ほんだ ゆうそう
本多 佑三
一般財団法人アジア太平洋研究所
研究統括
早稲田大学第一政治経済学部卒業。米国プリンストン大学大学院修了(Ph.D.)。大阪大学金融・保険教育センター長、大阪大学大学院経済学研究科長・学部長等を歴任。大阪大学名誉教授。APIR 上席研究員(～2017年9月)。関西大学総合情報学部教授。著書『計量経済学における大標本検定』(神戸大学研究双書刊行会・有斐閣)、『日本の景気-パブルそして平成不況の動学実証分析』(編著、有斐閣)、『はじめての金融 新版』(有斐閣)等。

めた結果です。いまは他の大学も阪大のやり方にならっています。

研究者の間にも自由な雰囲気があり、その中で私たちは「良い競争」をしていました。それを誰かが「阪大経済学部には心地よい涼風が吹いている」と表現したことを覚えています。

経済学は人類の知恵の宝庫

さて、経済学の話に移ります。経済学とは人類の膨大な知識の集積、言わば人類の知恵の宝庫です。それに何を付け加え、そしてそれをどう使うかを考えることが、経済学者の仕事だと思います。

①経済学者が重用される米国

経済学を経済政策にどう結びつけていくかという課題がありますが、これは日本より米国に一日の長があります。

米国にはCEA(大統領経済諮問委員会)という政府の経済政策の根本を決める組織があります。この組織は委員長1名と委員2名を経済学者が務め、その下にフルタイムで20～30人の専門家がつきます。日本の経済財政諮問会議はこの組織をモデルにしたものですが、ス

アップした日本は、経済学をようやく使えるようになったと思います。さらに経済のグローバル化が進んでいる今、経済学が役立つ範囲は格段に広がっていると言えます。たとえば、グローバルな企業経営にはマクロ経済の視点が不可欠ですし、あるいはもっと身近に、人々の生活向上に経済学の知見を生かしていく。その意味で、経済学者が多く関わっているAPIRの存在価値はこれからますます高まっていくと思います。

縁の深いAPIRに 恩返しをしたい

そのAPIRと私との縁は、APIRの前身である関西社会経済研究所のさらに前身、関西経済研究センターの頃に始まります。同センターが支援した「計量経済学研究会議」(通称「六甲コンファレンス」、のちに「琵琶湖コンファレンス」という会議があり、私は神商大にいた頃から参加していました。その後も関西社会経済研究所が支援した「現代経済政策研究会」に参加するなどして、若い頃に育ててもらったという思いがあります。この縁の深いAPIRに何か恩返しをしたいと考えて、研究

統括の職をお引き受けしました。

APIRは成長するアジアの 情報発信基地でありたい

APIRの目標の1つは、日本・関西企業の活性化です。難しい課題ですが、

私はやはり競争力が重要だと思います。オリジナリティのある商品やサービスを開発して競争力をつけていく。オリジナリティとは、経済社会に対する幅広い知識を身につけてこそ得られるものです。それゆえAPIRは、その知識の基盤となる情報を提供していきたい。特に、成長著しいアジア太平洋地域に関する情報発信基地でありたいと思います。そういった形で、日本・関西がアジア太平洋地域と共に発展することに貢献していきたいと考えています。

経済を抽象的に捉え、 かつ現実的に見る眼を持った 研究員を育てたい

ノーベル経済学賞を受賞した経済学者サムエルソンに聞いたことがあります。「研究者が経済を見ると、一方で高度に抽象的な世界で思考し、一方で極めて複雑な現実社会を見ようとします。研究者はどこに軸足を置けばよいのでしょうか?」。サムエルソンはこう答えました。「両方やればよい」。APIRには企業志向者が多く、研究員が企業の生きた情報を得やすい状況にあります。研究員には、経済を抽象的に捉える思考を磨くとともに、企業経営や人々の生活向上に経済学を生かすことを忘れないでほしいと思います。

また、先ほども言いましたが、学閥や出身地に関係なく人材を集めて育てるという伝統が、関西にはあります。APIRもその伝統を継承していきたいと思います。



『アジア太平洋と関西 関西経済白書2017』刊行

ASEAN設立から50年、著しい成長を遂げるアジア。
米中との関係を踏まえ、
日本を含めたアジアがたどる道、
そして関西経済の方向性を探りました。

今年度の白書では、「アジア太平洋の政治パラダイムと経済」と、「関西経済が目指す方向性」という2つのテーマを設定しました。前者については、ASEANは今年設立50周年を迎える中、米中との関係を踏まえ、日本を含むアジアが今後いかなる道をたどるかを考えています。後者については、私たちが住む関西地域の今後の経済の方向性について、取りまとめました。特に、インバウンド振興が奏功し、医療先進地としての認知も高まりつつある関西の今後の可能性について、論述しています。

Part I「アジア太平洋の政治パラダイムと経済」では、アジア太平洋の政治経済に生じている変化を分析しています。中国の台頭などを背景に世界経済への影響力は衰退しつつあるものの、依然として世界最大の国内総生産(GDP)を生み出す米国において、2017年1月、トランプ大統領が就任直後に大統領令にてTPPからの脱退を表明したことは、世界に衝撃と保護主義の台頭を喚起させました。今回の白書では、この米国の一国市場主義の影響を受けるアジア太平洋について、中国・東南アジア・オーストラリア・ロシアといった地域事情に関する分析を論述しております。

Part II「関西経済が目指す方向性」では、足下の日本・関西の経済の動きを見極め、中期的な課題について掘り下



裏 「大阪ベイエリア風景」(写真提供:大阪市)
表・左上 「関西空港の外観」(写真提供:関西エアポート)
表・右上 「新名神高速道路(城陽ジャンクション・インターチェンジ付近)」(写真提供:西日本高速道路)
表・下 「黄昏時の神戸港」(写真提供:神戸市)

げています。日本および関西経済について、デマンドサイドから回顧と展望を分析し、サプライサイドから、関西経済の課題と展望、未婚無業女性と既婚女性に注目して、女性の活躍を分析しています。更に医療先進地としての認知も高まりつつある関西を見た際、中期的に成長の牽引役としての役割が期待されるウェルネス・ツーリズムや、大阪での開催が期待されている「2025 大阪 EXPO」について課題を分析しています。

※定価2,700円(税込)。
※Amazon、また、丸善・ジュンク堂など全国の書店で取扱販売しています。

記者レク、盛況!

白書発表会に先立つ10月17日、恒例の事前記者説明会(記者レク)を行いました。10社16名の記者の方々にお集まりいただき、猪木武徳研究統括、稲田義久センター長、後藤健太主席研究員らが今年の白書の読みどころを説明しました。

日経、産経、読売、神戸各紙、共同通信、産経Webニュースに記事掲載されました。



『アジア太平洋と関西 関西経済白書2017』

◎目次

PART I アジア太平洋の政治パラダイムと経済

1. アジア太平洋の貿易体制
2. 米国の自己認識力は確かか
3. 日本の直接投資に注目する
4. 長期的な経済の動き

Chapter① 一国至上主義の影響を受けるアジア太平洋

- Section 1 米国の保護主義と世界経済への影響
- Section 2 中国の金融リスクと人民元の国際化
- Section 3 韓国の財閥主導による経済成長モデルの終焉
- Section 4 ASEANの半世紀とこれからの経済連携
- Section 5 リーマン・ショック後のアジア新興国および中国の資本フロー

Chapter② アジア太平洋の各国・地域事情

- Section 1 中国経済—国有企業改革・不動産市場
- Section 2 東南アジアの金融メカニズム—「アジア金融協力」への含意
- Section 3 ベトナムの銀行業界改革における外銀の役割
- Section 4 インドネシアの新しいインバウンド・ツーリズム
- Column A オーストラリア経済の自然資源からの脱却
- Column B ロシア主導のユーラシア経済連合(EAEU)の展望と影響

Chapter③ 変貌するアジア経済と日本

- Section 1 多様化・多極化するアジアと中所得国の新展開
- Section 2 アジアの知産業人材と日本経済とのネットワーク構築
- Section 3 タイの集積地をどう生かすか
- Section 4 胎動する中国のロボティクス・イノベーション
- Section 5 日本とアジア諸国間の産業再編
- Column 国際競争力アンケートから見た日本企業の認識

PART II 関西経済が目指す方向性

1. 関西経済の特徴
2. 関西経済の回顧と予測
3. 関西経済の課題と展望
4. 関西経済が目指す方向性

Chapter④ 日本・関西経済の回顧と予測

- Section 1 日本経済—再興戦略の課題
- Section 2 関西経済の現況と短期予測—停滞から脱却する関西
- Section 3 関西経済府県別動向—2015~16年度の各府県の回顧

Chapter⑤ 関西経済の課題と展望

- Section 1 女性の活躍—未婚無業女性と既婚女性に注目して
- Section 2 企業経営における健康医療と医療産業
- Section 3 関西の交通インフラが抱える課題
- Section 4 「2025 大阪EXPO」と関西経済
- Column 関西の大学のあり方—志の高い産学共創を目指して
- Section 5 ウェルネス・ツーリズムの産業化

Chapter⑥ 関西GRP100兆円を目指して

- Section 1 関西経済の中長期展望2020 アップデート
- Section 2 経済センサスから読み解く関西の産業構造
- Column A アジアに進出する関西経営者の奮励
- Column B 都市におけるIoTの活用と期待—一人が主体のスマートシティへ

PART III 資料編

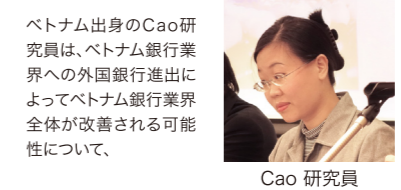
- データで見る関西 ●関西年表

10月19日に事業報告・関西経済白書発表会を開催しました。(参加者81名)

島章弘シニアプロデューサーの司会のもと、猪木研究統括、稲田センター長、後藤主席研究員による白書の概要説明の後、執筆者が「編集後記」と題して所感を述べました。



猪木 研究統括 稲田 センター長 後藤 主席研究員



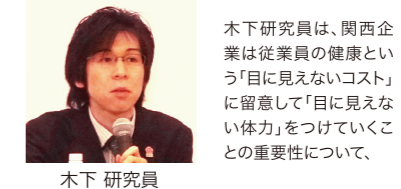
ベトナム出身のCao研究員は、ベトナム銀行業界への外国銀行進出によってベトナム銀行業界全体が改善される可能性について、



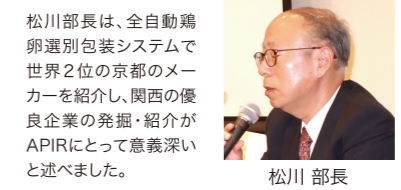
中国出身の車インタールは、中国経済の課題である固定資産投資減速と国有企業改革について、



オーストラリア出身のNealeインタールは、オーストラリア経済の自然資源からの脱却について、



木下研究員は、関西企業は従業員の健康という「目に見えないコスト」に留意して「目に見えない体力」をつけていくことの重要性について、



松川部長は、全自動鶏卵選別包装システムで世界2位の京都のメーカーを紹介し、関西の優良企業の発掘・紹介がAPIRにとって意義深いと述べました。



司会: 島 シニアプロデューサー

◎編集委員・執筆者

- 稲田 義久 APIR数量経済分析センターセンター長(編集委員長)
- 猪木 武徳 APIR研究統括(編集副委員長)
- 後藤 健太 APIR主席研究員(編集委員)
- 松林 洋一 APIR主席研究員(編集委員)

- 梶谷 懐 神戸大学教授
- 木村 福成 慶應義塾大学教授、APIR上席研究員
- 岩本 武和 京都大学教授、APIR上席研究員
- 三重野文晴 京都大学教授
- 岩田 伸人 青山学院大学教授
- 大野 泉 政策研究大学院大学教授、APIR上席研究員

- 大泉啓一郎 日本総合研究所上席主任研究員
- 伊藤 亜聖 東京大学准教授
- 鈴木洋太郎 大阪市立大学教授、APIR上席研究員

- 下田 充 日本アプライドリサーチ研究所主任研究員
- 入江 啓彰 近畿大学短期大学部准教授
- 小川 亮 大阪市立大学准教授

- 前田 正子 甲南大学教授、APIR主席研究員
- 後藤 孝夫 近畿大学教授、APIR主席研究員
- 半田 佑紀 関西経済連合会副主任
- Cao Thi Khanh Nguyet APIR研究員

- 木下 祐輔 APIR研究員
- 金 賢九 東京大学大学院博士後期課程(APIR元インタール)
- 車 競飛 APIRインタール
- Neale Miles APIRインタール

- Bisri Mizan Bustanul Fuady APIRインタール
- 野村 亮輔 APIRインタール
- 島 章弘 APIRシニアプロデューサー
- 高橋 保裕 大阪観光局プロジェクト推進担当部長(元APIR担当部長)

- 橘 知孝 APIR調査役
- 松川 佳洋 APIR部長
- 山本 明典 APIR総括調査役
- 馬場 孝志 APIR調査役
- 辻 俊晴 APIR総括調査役

(2017年8月現在、順不同、敬称略)

第113回景気分析と予測/Kansai Economic Insight Quarterly No.35

- 日本経済 足下堅調な景気回復を確認するが、先行き持続性に難点
- 関西経済 緩やかな改善が続く関西経済



APIR内の研究ユニット、数量経済分析センター(センター長:稲田義久 甲南大学副学長)では、日本経済・関西経済の予測と分析を定期的に行っています。

2017年8月30日発表のAPIRの予測は以下の通り

(単位%)	2017年度	2018年度	
全国GDP	2.0	1.2	17年度の成長率増(前回予測より全国は0.6ポイント、関西は0.5ポイント引上げ)について、全国は高い消費性向によるもの(ただし持続性がカギ)、関西はアジアへの輸出やインバウンド消費の好調によるもの。
関西GRP	1.9	1.7	

詳細はこちら 経済予測:Quarterly Report(日本) <http://www.apir.or.jp/ja/research/asis-economy/quarterly-ja/>
 経済予測:Quarterly Report(関西) <http://www.apir.or.jp/ja/research/asis-economy/quarterly-kansai/>

日経、朝日、産経、毎日、読売、神戸各紙に記事掲載されました。

APIRインターンの「私が日本を選んだ理由」

「おいしいもの」のために研究に邁進したい

APIRにはアジア太平洋諸国出身のインターンがいます。彼らが日本を選んだ理由を知ることは、日本がどんな国であるかを知ることにつながると思います。第3回は中国出身の車 競飛インターンです。

Q 日本に来たきっかけは?

浜崎あゆみと「おいしい食べ物」にハマった

中学生から日本の歌謡曲を聞いていて、浜崎あゆみが好きになりました。「日本でライブに行ってみよう」、「CDの歌詞カードの中国語は、日本語と合っているのかな?」と興味が高まってきて、大学では日本語専攻を選び、日本語を勉強しました。

そしてとうとう2010年、21歳で来日を果たしました。中国の湖南大学から交換留学で広島福山大学へ行き、修士課程を同志社大学で、いま博士課程を京都大学で学んでいます。

私は日本の食べ物が大好きだったので、食糧関連の研究をしたいと思っていました。京都大学での研究テーマは「農業と環境」です。日本の米消費(生産-輸送-消費)における環境負荷を、エコロジカル・フットプリントという手法で測定するのですが、米の輸入自由化を見据えて、輸入米と国産米の比較(米国・日本の比較)を行いました。近代農法が普及した日本と米国では生産段階に大きな差は見られませんが、輸送と消費段階を加えて考えると、国産米の環境負荷が低いという結果になりました。

日本の米はとてもおいしい。しかし、輸入自由化で日本の米が打撃を受けるかもしれません。「日本のおいしいお米を残したい!」、そんな思いで研究を続けています。

Q 日本のよいところ、「ここはどうか」と思うところは?

良くも悪くも「他人への配慮」がある国

日本人は常に他人に配慮して生活していますね。他の国の人との大きな違いです。それは他人への思いやりから来ていることなので



車 競飛 インターン(中国)

ですが、同時に、人と人、心と心との間に距離を感じます。中国人の友達とくると、あまり親近感を感じられないかもしれません。

いま私は、市川国際奨学財団から奨学金をいただいています。同財団は象印マホービンの元会長の私財の一部をもとにした基金で、アジア諸国の留学生に対して奨学援助を行っています。「奨学生が受けた恩を、将来自分の母国へ返す」という形で、国際社会に貢献しています。その責任感が素晴らしいと思います。

Q これから何をしたいですか?

中国の農業を元に戻したい

日本で学位を取得して日本の研究機関に就職し、研究を続けたいと考えています。また、いまの中国では欧米化された食生活の浸透によって、農業の生産性を高めるための大量の農業使用や、食品への違法添加物の使用など多くの問題があります。かつてのように自然の恵みのもとで食材を育てることが少ないのです。いつか自分の研究で、中国の農業を元に戻したいと思っています。

そして、日本での中国報道は偏ったものになりがちですが、同じことは中国での日本報道にも言えます。中国と日本、両方を知っている私は「本当の中国」を伝えていきたいと考えています。

〳 ~車さんはこんな人~ 〳

車さんの故郷・湖南省は、辛い料理が中心、夏暑く冬寒い京都のような気候、日本で言えば広島か岡山の規模で、名物料理は湖南省の省都、長沙の「臭豆腐」だそうです。



01

講演会

「温暖化対策に関する国際情勢と日本の課題」(関西経済連合会との共催)

有識者より、温暖化交渉をめぐる世界情勢と、それを踏まえた日本の課題および定量的なインパクトについて解説していただきました。

- 開催日: 9月8日
- 会場: グランフロント大阪
- 主催: APIR、関西経済連合会
- 参加者: 99名

02

企業の海外展開支援セミナー

「SDGsに関する世界潮流とビジネス上の課題・対応」(「親関西」人材ネットワーク連絡会の一員として国際労働機関(ILO)駐日事務所と共催)

今や企業のグローバル化において、CSRや人権、ディーセントワーク等のSDGs(持続可能な開発目標)への配慮は欠かせません。そこでILOジュネーブ本部からギータ・ローランス多国籍企業局長を招き、セミナーを開催しました。局長は、企業に求められる社会的責任ある労働慣行の実現に関するILOの取り組みを紹介され、オリンピックや万博のような国際的大規模イベントにかかわるパートナー企業は、SDGsへの配慮が不可欠であるとお話されました。その後、関西企業の担当者からの事例紹介とパネルディスカッションが行われました。ILOは関西企業の強い関心と問題意識の高さに驚かれ、今後の一層の取り組み拡大に期待していました。



- 開催日: 9月19日
- 会場: グランフロント大阪
- 主催: 「親関西」人材ネットワーク連絡会 (APIR、海外産業人材育成協会関西研修センター、近畿経済産業局、国際協力機構関西センター、太平洋人材交流センター、日本貿易振興機構大阪本部、関西経済連合会) 国際労働機関(ILO)駐日事務所
- 参加者: 72名
- 次第
 - 講演「ビジネスとSDGsに関する最近の世界潮流と企業の課題 ~企業に求められる社会的責任ある労働慣行~」ギータ・ローランス氏(国際労働機関ジュネーブ本部多国籍企業局長)
 - 関西企業の取り組み事例の紹介
 - パネルディスカッションおよび質疑応答 (コーディネーター) 後藤健太氏(関西大学教授、APIR主席研究員) (事例紹介登壇者) 佐藤雅宏氏(ミズノ法務部 法務・CSR課 上級専任職) 有川倫子氏(パナソニック ブランドコミュニケーション本部 CSR・社会文化部 CSR・企画推進課)
 - SDGsに関するプラットフォーム紹介 国際協力機構関西センター

03

研究者交流会を開催

- 次第
 - 講演①「パリ協定発効後の国際情勢と我が国の課題」有馬 純氏(東京大学公共政策大学院教授、APIR主席研究員)
 - 講演②「日本の2030年に向けた排出削減のインパクトとその課題」秋元圭吾氏(地球環境産業技術研究機構システム研究グループリーダー・主席研究員)
 - 意見交換
 - 〈パネリスト〉
 - 有馬 純氏(東京大学公共政策大学院教授、APIR主席研究員)
 - 秋元圭吾氏(地球環境産業技術研究機構システム研究グループリーダー・主席研究員)
 - 安田俊彦氏(関経連地球環境・エネルギー委員会エネルギー・環境部会会長、日立造船 執行役員事業企画・技術開発本部技術研究所環境エンジニアリングセンター長)



猪木研究統括を囲んで

APIRでは、研究・事業活動に関わる外部研究員を招いて、専門分野の枠を超えた交流の場を設けています。今年度は学界評議員もお招きし、猪木武徳研究統括が「『歴史に学ぶ』のか、『歴史は繰り返す』のか」と題して基調講演を行いました。

- 開催日: 9月22日
- 会場: グランフロント大阪
- 主な参加者(順不同)
 - 〈評議員〉文 世一氏(京都大学大学院経済学研究科長・経済学部長) 谷崎久志氏(大阪大学大学院経済学研究科長・経済学部長)
 - 〈主席研究員〉青山秀明氏(京都大学教授) 岩本武和氏(京都大学教授) 大野 泉氏(政策研究大学院大学教授) 鈴木洋太郎氏(大阪市立大学教授) 本多佑三氏(関西大学教授) *10月からAPIR研究統括に就任。
 - 〈主席研究員〉後藤健太氏(関西大学教授) 後藤孝夫氏(近畿大学教授) 松林洋一氏(神戸大学教授) 前田正子氏(甲南大学教授) 豊原法彦氏(関西学院大学教授)
 - 〈APIR〉猪木武徳 研究統括 岩野 宏 代表理事 田中厚世 理事・事務局長兼総務部長
 - 次第 開会挨拶: 岩野代表理事 / 基調講演: 猪木研究統括 / 懇談会